

横浜国立大学に着任して

五東 弘昭

平成 24 年 4 月 1 日助教として着任いたしました五東弘昭です。新任教員として簡単ですがご挨拶させていただきます。現在、工学研究院化学生命系学科化学 EP で研究・教育を行っております。学部、修士、博士過程を東京理科大学の林雄二郎先生のもとで研究に励み、博士課程終了後は、アメリカのサンディエゴにありますスクリプス研究所の Boger 研究室にて、今年の 3 月まで研究を行っておりました。ただ、出身は神奈川県相模原市であり、高校は川崎にある川崎総合科学高校に通っていたこともあり、横浜にはよく遊びに来ており、異国の地から故郷に帰って来られたことを、とても光栄に思っております。

私の専門は有機化学であり、これまでは不斉触媒反応の開発、天然物や医薬品の誘導体合成などを行っておりました。しかし、これからの社会に求められる研究者とは、新しい分野を開拓できる人物であり、そのためには、専門的な知識を有しているだけでなく幅広い知識を有し、それらを組み合わせることにより、それまで全く予想しなかった方向に発展させる創造性が求められていると思います。そういう観点から、場合によっては自らの専門分野にこだわらない柔軟性や、幅広い分野の人とのコミュニケーション能力、自ら課題を発見し解決していく能力、未知のものに対するチャレンジ精神を有する研究者になっていきたいと考えております。今後は、榭原和久先生とも協力しながら機能性分子の合成を行います。

素晴らしい教育研究環境を達成している本校に着任した喜びは申し上げるまでもありませんが、同時に、その責務の重大さに身のひきしまる思いがいた



します。本校に着任後、学生の研究指導もする立場になり、研究成果はあくまで結果であって目的ではなく、研究を行う中自ら学べる環境ならば、能動的に研究のことを考えられる学生が育っていき、おのずと研究成果も付いてくるものであると考えるようになりました。そのためには、学生を自身の研究の実験助手として扱ってはならず、学生の自立心を尊重し、学生に研究提案の機会を与えながら、学生と同じ立場に立とうとする姿勢で研究を行うことで、学生は自ら独創的な研究提案を行い、立案した計画のもとで意欲的に行動するといった能動的な学習が行えると考えております。

常に学生達の前面に立ち、もの作りの面白さ、現象の根源を理解する科学の素晴らしさを伝え広めていくことが、研究者、教育者としての使命であると考えております。採用して下さった先生方の期待に応えられるように、国大化学会の会員の皆様のご指導ご鞭撻を頂きながら、精一杯努力する所存です。不慣れで何かと御迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、御指導御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。